

刊夕日廿月一

常磐每日新聞

定価二角五分
 廣告料五號十行一頁五拾銭
 日曜祭日の翌日休刊
 發行所 常磐毎日新聞社
 電話 六三〇
 印刷所 常磐毎日新聞印刷部

祈禱の種々相

眞 繼 雲 山

眞言宗では「悉地」といふことをいふ。素と梵語であつて、譯して妙成就となる。即ち所願を達成すること、御利益を受けることを意味する。

概して淨土門は祈禱を排するが中んづく淨土眞言宗は絶対に現世利益を否定する。それは佛に利益なしといふにはあらず、既に現身に絶対の慈悲を蒙ふとなすによるので、眞に佛を見得ば不平なかるべく、不満なくんば祈り求むべき必要はあるまい。

これに反して眞言宗と日蓮宗は、比較的祈禱を重んずる宗旨といふてよからう。已れの足らざるを憂ひて佛の加被力を待ち、仍りて以て無上菩提を證せんといふことであるならば、宗教として固より適當の信仰である。しかしその欲求がだん／＼低下し、祈禱によりて病氣を治し、甚しきは財利を恵まれんと欲するに至りて、初めてそれは迷信の域に墮する。

左れど迷信は無信にまさるので祈禱のものに引きつけられて熱心な信者になつてゐる人々もある。世上

併し、眞に一切皆空に徹し得ば、身心の脱落を得て病は退散し、即心即佛、法性の體となる。心經一卷は、その結論が短的に掲げられてゐるのだが、誦する常人に慈念あるため、折角の結論を體得し得ないのは是非もない。

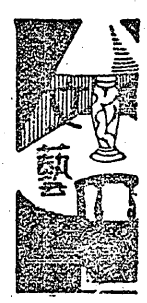
悟れば、本來の面目は法性涅槃の體であり、彌陀救済の極理は無生法忍であるから、實は祈るべく、又祈らるべき何物もない譯である。

それが本統の徹底したる信仰であるも、その一境に到り得ぬ俗間の宗教は、その堂奥に到るべき前提、通路、階級としての存在價值がある。階級が如何なる仕組であるにせよ、堂奥にさへ通じてゐるなら、先づ以て安じて可なりと思ふ。

然るところ、その般苦心經には一體何が書いてあるのかといへば「一切は空である、何んにも無いのだ」といふことが梵漢並舉で繰り返へし／＼徹底的に述べてある。尤も學的に見て、その空とは無の意味ではないにせよ、一切は空だと叫びつゝ病氣平癒を祈るといふのは經の文面と祈る者の心事とは、慥かに千里の喰ひ違ひ無きを得ぬ。

滔々、概ね然りとも言ひ得やう。その祈禱によつて果たして何程の御利益が得られるかを知らないけれど、祈とうの門を潜つた縁によりて本統の信仰が得られたといふことなら祈とうの功德、眞に偉大なりといふことが出来る。祈とうの經文として古來、最も俗間に知られ、人口に膾炙してゐるのは、般苦心經を以て通則とする。病人の枕邊をめぐつて圓座となり、これを千遍誦するならば、如何なる重病も立ち所に平癒すると傳へらるゝの俗は、東西の國々において是れあり、事實さうした光景をすら私は幾たびか目撃したことがある。

然るところ、その般苦心經には一體何が書いてあるのかといへば「一切は空である、何んにも無いのだ」といふことが梵漢並舉で繰り返へし／＼徹底的に述べてある。尤も學的に見て、その空とは無の意味ではないにせよ、一切は空だと叫びつゝ病氣平癒を祈るといふのは經の文面と祈る者の心事とは、慥かに千里の喰ひ違ひ無きを得ぬ。



平山時雨

寒へとてさむへとて
 鳥の麥の芽
 葉が寒へとて
 星の降る夜は
 霜も降る
 霜にぶたれて
 むぎの芽は
 緑の葉並が
 よれよれに

セメント 壁用材料
 コールタール
 ペンキ塗料
 板ガラス

磐城セメント株式會社
 代理店 西村屋藥舖
 平町二丁目電三

外科 X 光線科
 性病科
 外科

平町田町
 安齊外科醫院
 電話四七五番

石炭經濟の理想的ストーブ
 フクロクストーブ
 に優るものなし

ストロブ 御買上の際是非御相談下さい
 カタログ持參御説明申し上げます
 電話二三七番
 阿部石炭商店

優良にして徳経済なる
 特製ハカリ賣り
 ポマード及クリーム御使用をおす
 めいたします

純植物性 ポマード
 純良なる精油を以て精製したるもので石鹼で一度洗ひはサラリと落ちます
 弊店で友達や知人によつて試みした上の自慢の製品です一度お使用を願ひます

高級 クリーム
 今まで、ハカリ賣りクリームと云ふと、齋詰クリームより悪いとの定評でありましたがこのクリームはその様なこと絶対ありません弊店特製...保證の品です、お最負を願ひます。瓶詰より随分お徳です

純正 椿油
 髪油の選擇は分御注意を拂はねばなりません、粗悪なる油の御使用は髪のため却つて非常なる弊害を來します。安心して御使用の出來る當店取扱の正椿油(一合六十銭)の御使用をおすめいたします

大島 正椿油特約販賣店
 特産
 ポマード クリーム 製造元 田卷香油店
 各種香油 平二丁目電四一五番

當方地に於ける
 タクシー界のナンバーワン
 最高級車プリモス號増車致しました
 何卒御用命の程御願ひ致します

電話三九五番
 セリガワタクシー

専門 内科一般
 宅診 内科は何でも診療致します
 往診 呼吸器病ばかりではありません
 平町南町六五

川井内科診療所
 醫學士 川井重之
 女醫 川井安子

泉村で小學校生徒に

販賣組合の實地教育

小學生を組合員と見なして

夫々事務の整理を行はしむ

石城郡泉村泉販賣利用組合では豫てより組合趣旨の普及の爲め種々盡力して居つたが今回小學校児童へ組合の購賣法及び事務的組織等の實地教育を行ふ事になつたので同村全生徒を組合員とみなし全生徒の學用品購賣を組合法によつて児童自ら購入、販賣、記帳等を夫々受持つて整理し他日社會に出て各種組合の活用にあつては於て大なる効果を擧ぐる事に努めて居るが其他各町村共小學校児童の購賣組合組織を準備中で既に渡邊、平窪の各村にても實施して居り漸次郡下に普及せられる模様であると

危険と見れば

嚴重な始末書

平消防組員が

けふ火防督勵

平消防組では本日全員平署に集合、全町内の防火思想

中堅農民

期日が決定

既報石城郡農會主催のもとに行はれる農家中堅農民長期講習會は左記の如く開催される事に決定した
(二月八日より十二日迄)
石城郡磐崎小學校(二月十八日より三月八日迄)
郡農會樓上

戦はずして

敵を壓倒す

廿九聯隊寄

第一大隊主力は午後二時頃遼河左岸水源地附近に到着し官民代表の先導の下に概ね平穩裡に用莊臺に進入することを待たるも大隊本部力商務總會に到着する刹那、突如數發の銃聲と共に所々に潜在せし、匪賊約五百は保安隊公安隊等相繼ぎ

千枚を各戸に配布する外戸毎に失火の恐ある竈、煙突、風呂場等を検査し防火上危険ありと認められた際は「何日迄に修理致します」との始末書を徴する等徹底的な防火検査を嚴重に行つた

勿來町長再選か

廿日頃改選明會

石城郡勿來町長大平陸四郎氏は來月十三日を以て任期満了となるので是が後任に就いて廿日頃明會が開かれるが状態は同氏の再任するものと見られて居ると

滿蒙講演

今晚聚樂館に

人類愛善會平支部にては本日午後六時から聚樂館に於て滿蒙視察大講演會を開催同會特派講師鈴木延吉氏の講演ある筈にて平町役場及び同業警署新聞社と本社が後援する事になつて居る

振替口座開設

今回遠隔地取引顧客方の便宜に振替口座『東京四〇二一〇番』開設候間御利用願上候

常磐毎日印刷株式會社

磐崎村慰問 石城郡寄附二百圓 磐崎村役場では目下全村より滿洲出征軍人並に東北北海道の貧困農民救済の慰問金を募集中であるが此程二百圓に達したので廿二日村役場に於いて分割發送する事に決定した

平町人事

△鎌田町二 猪狩祐政氏長女タカ子
△元縣議鈴木辰三郎氏 今朝急行にて東京へ

猪突猛進し彼銃聲は愈々熾んに暗中諸所に我賊聲響る。

當時大隊は北門及西門を各一部を以て守備せしめ他は商務總會附近に集結し、小銃、機關銃、擲彈筒、手榴彈等を以て將士善く防ぎ戦ひ翌拂曉迄に全く之を撃退せり。

此戦斗に於て、戦死二、負傷七名を出したるも未知の市街に於て夜間衆敵に包圍されながる損害の僅少なりしは寔に天祐と云ふべし。

又第六中隊は二十三日牛莊城に進み野砲兵の遼河偵察を掩護せしか數百の匪賊と交戦せしむ幸ひ死傷なし十二月二十八、愈々待ちに待たる錦州方面兵匪討伐は開始され、歩兵第三十九旅團は奉天より京奉線により又第二師團主力は營口より、北寧支線に沿ひ一舉溝帮子を挾撃するに決し聯隊

今時の前進に當りては六小行李を編成し其掩護を確實にししむるため各隊の直後に續行せしめれば、一縱隊となり行進する師團の長經に實に四、五里に亘り蜿々として一望遮る無き殘雪凍る曠野を村より村へと縫ひ進む様は既に戦はずして敵を壓倒するの威風あり

△縣議井上茂作萩原義良野崎滿藏の三氏本日午前八時五十分平驛發列車にて福島へ

冬服衒心

細色柄物... 三ッ揃... 拾貳圓
最新柄... 三ッ揃... 拾三圓五十錢
最上細黒... 三ッ揃... 拾六圓五十錢
高級品... 三ッ揃... 拾九圓

平町正札堂洋服店 電話四三六

專門 婦人科 産科 花柳病科
◎入院應需

井坂醫院

平町田町 電話五五九番

貸切の●●●

御用命は?

獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ... (マツサキ)

三九二タクシー!!!

平町の年中行事

縣社々頭の節分

特に本年は皇威發揚の祈願

平町福和内會は大正七年以來毎年縣社子會神社々頭に嚴肅な追儼式を執行

老若男女多數参加

合つて非常な賑ひを呈し今では平町の年中行事の一つに數へらるゝに及んだが世話人の努力に依つて遂年郡内各村に迄會員が増加し其數

二千名に達する盛況

と傳へらるゝが本年も來月二日午後一時より修拔を行ひ同一時半より家内安全の祈禱を濟し、同二時を期し社前にしつらへた檜の上に皇威の年男が登つて「福は内、鬼は外」の聲も時々しく豆蒔を行ふ筈であるが特に本年は在滿軍人の健康と皇威發揚の祈願をこめる事になつて居る因に同會々長の柳下元吉氏は左記の如く語つた

「節分と云ふのは嚴冬の寒さが盡きて花咲く春に入る季節の分れ目であります、即ち舊態を脱却して新活動に入るの時であります、故に古來津々浦々の神社佛閣は勿論山間僻地の農家に至る迄盛んに追儼式が行はれるのであ

りまして平町に於て縣社々前に此事あるは町の賑ひの上にも非常な力があると自信して居ります。此の式は豫災招福を祈願するものでありまして十才(申歳生れ)十九才

急に寒さが來て

小學兒童の風邪流行

三十年來の暖さから二三日來急に酷寒が襲來したので平地方には最近感冒が流行し重に子供に多くすぐ咽喉へ來て高熱が出るもので殊に通學兒童に多く、各小學校では兒童にいろ／＼注意を與へてゐる

炭礦對抗

卓球試合

郡下各炭礦運動部が聯合して來月五日卓球選手権大會を開催するので各炭礦共目下猛練習であるが會場は内郷村の磐炭クラブを使用し本月卅一日には同礦高坂坑事務所に於いて参加選手の豫選大會を行ふ筈である

筆劍新年懇親

平町日刊新聞記者は平警察署と合同し昨夜六時から住吉屋

水兵美舉

軍艦春日乗組丹野水兵は郷里石城郡玉川村に休暇歸郷中、五日福島縣隊區司令部へ滿洲派遣兵慰問金として金三圓を送附した

組閣祝賀

菊多政友が

石城郡植田菊多方の政友派の犬養内閣祝賀會は十九日午後一時から同町菊多座において縣支部鈴木幹事長外金成、安島、古川、赤坂の諸氏外有力者三百餘名會合開催され席上解散後の選舉對策につきそれぞれ協議打合せをなしたが今回の選舉に對する菊多方の結束は敵派にとつて一衝動を與へ一般の注目を引いてゐる

百日咳が大流行

磐崎村で豫防の協議

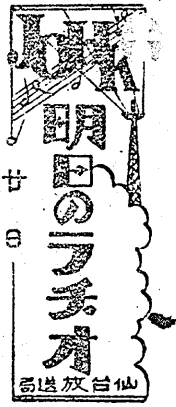
石城郡磐崎村では目下百日咳が流行して主に壹歳から五歳迄の幼兒に多く全村の兒童の大卒が冒かされて居る有様なので目下村當局では時が豫防法に就いてより協議中である

上遠野の内務大臣

驛員の手に噛付く

無札をとがめられて

上野發仙臺行列車が昨日午後七時五十二分平驛に到着多數の降車客が改札口に雪崩を打つて押寄せた際洋服の上衣を着しない四十六七



報豫氣天

今晚は北風曇り明日は北西の風晴れたり曇つたり

今晚の部

後六〇〇(子供の時三)お話「電氣遊び」原田三夫
後七三〇講演「八甲田山遭難し回顧」歩第五
聯隊附歩兵中佐 砂川泰
後八〇〇三曲名流大會(都新聞社主催)比谷公會堂より中繼
後九〇五 連續二人漫談

明日の部

前九一〇料理献立「紅焼牛肉」四ツ會龍男
前一二〇三〇家庭講座「謠の道しるべ」二解説池

平時業紹介所報告

- 求人部
- 旅館女中 四十才以下 尋卒 給料面談(田町某旅館)
- 外交員 高卒 三十以下 給料面談(鷹匠町某)
- 雑夫 五十才以下 日給六十錢位(磐崎村某請負)
- 求職部
- 雑夫 卅八才 尋二修 給料面談(宮城縣某)
- 自轉車修理 廿六才 尋二修 月十圓位(植田町某)
- 綿工場女工 廿三才 高卒 給料面談(平町某)
- 店員 廿一歳 高卒 通勤科十五圓位(岩手縣某)
- 雑夫 四十三歳 日給五十錢位(内郷村某)

女に許り...

見える幽霊

是れは又三二二二に時代めいた妙な噂昔はいざ知らず科學の發達してゐる三十二年の今日幽霊が出るやと云つたら「何云つてやがんだ」と一笑に附されるかも知れないが、平町某方の貸家である、この貸家が昨年十月頃建られた時借り受けた若夫婦があつた、或夜この若妻が臺所に立つて行くや「アレツ」と絹を裂く様な悲鳴をあげて座敷に居る夫の胸に飛びつき、唇と抱きつき恐怖におのき顔は血の氣を失つてゐるので彼は驚き「何うした

と尋ねれば齒を振るはせながら「臺所に幽霊が出たのです」と真しやかに云ふので「そんな事があるものか」と立つて行つて見たが幽霊どころか鼠一匹出ない「何んだかお前の錯覺ぢやないか」と腹を抱へて笑ひかけたが、その事あつてより妻は衰弱し「確に臺所の障子に男の幽霊の影がうつると云ふので移轉したとそれより同貸家は轉々として住む人は變つたが「どうも薄氣味が悪くて」と十日間と住む者はなかつたそれより同貸家に幽霊が出る男に見えず女にはかり見ると噂が高くなつてそれは今より十年前女の事より倒れ倒れ敷内の古井の傍にある杉の木に首を吊つて縊死その怨念こもれる杉の木を同貸家を建てる際臺所の一角に使用してあるからだと噂は噂を生み今はゆう靈屋敷と云はれてゐるがそんな事があらうはずがない一夫虚に吠へる輩だと嘲弄されるかも知れないが目下平署で内債中

科人婦科産院醫坂井

町田町平 香九五話電

小説



(百卅三)

【載轉禁】

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

親族 會議 (8)

「この人の名譽を傷けた過失に對しては相當の處決をしなければならぬまい。いよいよ坊主になるつもりか。」

治右工門は笑ひながら言つた。清作は眞面目で

「旦那のお願で済みませんが此問題はしばらくのところ私に預けておくんなさいまし。」

「預けるのもよいが、如何するつもりだ。」

「一ツ證據は失くなつたがもう一つ大きな生きた證據がござえます。そいつを此處へかつぎ込んで參るまでの間、どうかお待ちなすつて。」

「生きた證據があるから、それを差出すまで打切らずに置いてくれといふのか。待つてやるもいゝが、手間取つちや困るぞ病人も心配だしさつさと片ツ端からかたづけたいかなくちやならないんだから。」

「え、直です。物の三十分もかゝりあしません。」

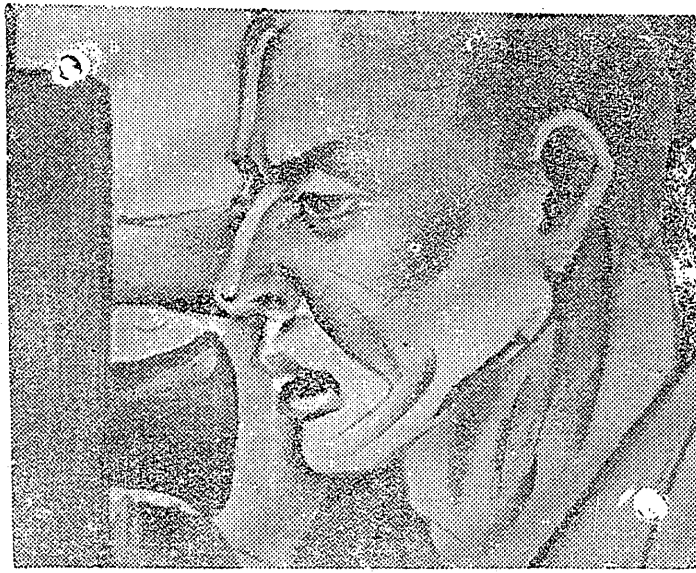
「よしッ、ぢやあ猶豫時間を一時間として置くから。」

治右工門は一寸時計の方を顧みてから

「お前は坊主になるんだぞ。いゝか。」

「擲擲うやうに言つた。『ようがす。』」

清作は何處までも眞面目に承けた。そして急いで會議室を飛出してとつはくさ



もう一つの電話が有つたからである。と、其處にも見舞の客が五六人居合せてその一人が何處へか電話をかけてゐた、それがまた莫迦に長い話だつた。

彼は辣々ともたつて『仕様かねえなア。奥の方を借りようかしら。』

と茶の間まで入つて見ると、奥の間にも醫者が來てゐて、取込んでゐる氣配だつた。

其處の電話も今使用だと見えて呼鈴が鳴つてゐた。彼は堪らなくなつて玄關からいきなり表へ飛出

電話をかけやうとするその岩廻りに若い店員たちや出入の者がごた／＼詰めて難談に就つてゐた。『まづいな。これや。あつちの爲よう。』

した。ちやうど横町の角に立つたばかりの自動電話があつた。霧に其處へ駈込んで彼は、飛びつくやうに受話器を取つて銀座の五百八十番を呼出した。と番號が間違つたのであらう。他の人が出た。

時計眼鏡
トキワヤ
平一・電三三九

誠に便利な
商用品券
いさ下用利御率何
番六八二話電

金額の多少に不拘調
製致します
平町南町
鳥肉商鳥菊

「おい、交換手、今から寝ぼけて如何するんだ。なにッ、ぶん殴るぞッ養生。そんな生意氣をいゝあがると手前の歸りを待伏して天窓から流酸を打ッかけてテカノ茶罐のびつちより面にして、お嫁にいけねえやうにしてが、いゝか。早くつなげよ、スツペラベツチヨ女。」

ぶん／＼八ッ當りをしてやつと呼び出したのは歌治であつた。

「おい／＼。俺だ。爺だよ。然うだよ。直と来てくれ、おい、早く、大急ぎ。十分間のうちに……なに、然うはいかねえつて。いかねえことがあるもんか。ひ一件だ。」

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

冬の通學服
當店特製の黒小倉通學服を豊富に取揃へて御座います。

長ツボン付
小學生用……・85錢
同(特製品)……1・90錢
中學生用……2・80錢

なかや洋服店 平三 電23

御用命は總て印刷物
常磐毎日印刷株式會社
番〇三六話電

鳥の油 大勉強
四合壇詰 一本 三十五錢
一升入同 九十錢

鈴木鳥肉店
電六五四番

滋養豊富、天ぶら其他揚物等には頗る美味……是非一度御試食下さい、多少不拘配達致します
平町町極小跡

井の三
手切品商
平三 電三二八

三井の
手切品商
平三 電三二八

大塚の
學生靴!!!
耐久新製品
編上靴 六〇〇
半靴 五〇〇

不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を……

大塚店製靴部
電話七七番